

# コンビニのしくみについて

—コンビニ弁当が店頭に並ぶまで—

62期生

## I 研究動機

あちこちにあるコンビニの経営がどのようになっているのか気になった。また、附中生がコンビニ、コンビニ弁当に対しどのような考えを持っているのか、そしてどのように利用しているのか、知ってみたかった。

## II 研究方法

1. コンビニの店長さんにインタビューを行い、コンビニ弁当の仕入れや売り上げ、商品の配置の仕方などについてお話を伺う。
2. 附中62期生を対象にアンケートを行って、コンビニを利用する頻度や、コンビニ弁当への感じ方を調べる。
3. 文献調査を行い、コンビニ弁当の材料がどのような過程を経てコンビニに到着するのかを調べる。

## III 研究内容

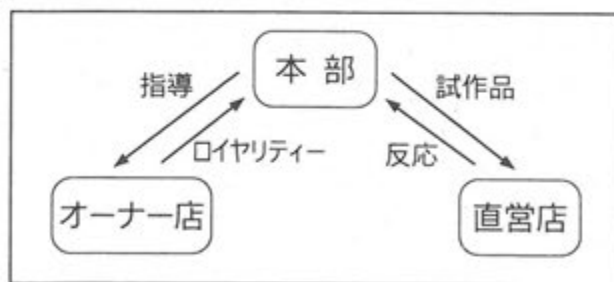
### 1. コンビニの仕組み

#### (1) 本部と支店の関係

コンビニの支店の種類としては2種類があり、それは直営店とオーナー店である。この2つは私達、消費者には見分けがつかないが経営の仕方は大きく異なっている。

全体の約1割をしめる直営店は本部が経営しており、店長は本部から派遣された方が務めている。また、試作品の反応などは、直営店で見られている。それに対しオーナー店は、自ら「コンビニ店長をやりたい!」と考えた人が本部と契約を結んで、店長を務めている。オーナー店は本部に対し、ロイヤリティー（ロイヤルティーともいう）と呼ばれるブランド使用料、経営指導料を支払っている。

\* (図1) 本部、オーナー店、直営店の関係



ちなみに、今回取材させていただいたセブンイレブンの堺筋本町店は直営店です。

#### (2) 商品の仕入れ

コンビニではPOSシステムと呼ばれる物を使って仕入れる商品を決めている。POSシステムとは「何が、いつ、どんなときに売れたか」という情報をまとめて集計するシステムのことで、

店の運営の合理化に役立っている。仕入れを決める流れは

\*各方面のグループ（弁当グループ、文房具グループ、雑誌グループなど）がPOSシステムを利用し、売れる商品と売れない商品を確定。



\*グループごとに決めた仕入れの要望を、店長に伝える。



\*店長が微調整した物を注文する。

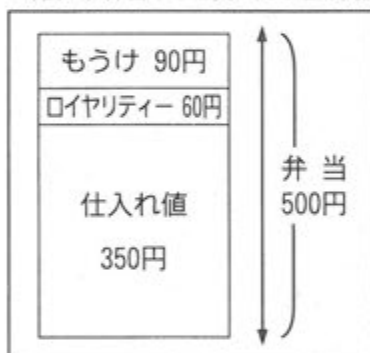
となっている。

弁当の仕入れは1日2～3回ほどで、それぞれの時間帯に合わせた種類の弁当が運ばれて来ることから、いかに弁当がコンビニの主力商品なのかが伺える。

### (3) コンビニの利益

アンケートを取ったとき、「コンビニ弁当は高い」という意見が多かったため、500円のコンビニ弁当1つが売れたときの店の利益を計算してみた。（仕入れ値を売値の7割、ロイヤリティーを粗利益の4割として計算する。）

\*（表1）弁当1こを買ったときの内訳



売値の7割が仕入れ値なので、仕入れ値は、

$$500 \times 0.7 = 350 \quad 350 \text{円}$$

350円が仕入れ値となるので、粗利益は、

$$500 - 350 = 150 \quad 150 \text{円}$$

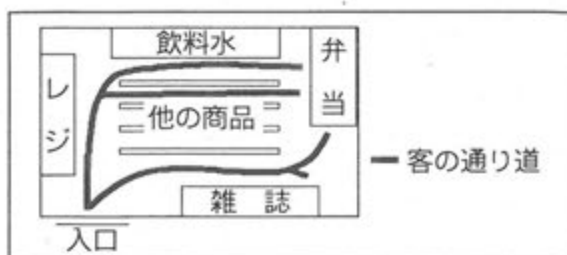
さらにロイヤリティーを支払うので、店に残る金額は  $150 - 150 \times 0.4 = 90$  90円にしかならない。

さらにそこから光熱費、人権費などを払わなければならないため店の利益はさらに少なくなると考えられる。

<考察>コンビニの経営はいっぱいいっぱい、値段が高くなるのはロイヤリティーを支払わなければならないためだと考えられる。

### (4) 商品の配置の仕方

コンビニにはよく売れる3種類の商品（弁当またはおにぎり、飲料水、雑誌又はマンガ）があるが、コンビニはそれを利用して店内での商品の配置を工夫している。下の図のような配置が主流となっているようだ。



これは、目的の商品を見つけやすくなっている配置だといえる。

また、目的の所まで行くのに他の商品の前も通るので、一緒に買ってもらえる配置だといえる。

(図2) 商品の配置の仕方

(5) まとめ

今回、インタビューしてみて、私達が24時間コンビニを利用できる裏には、店長さん達のたくさんの努力があることを感じた。また、なにげなく見ていた商品の配置にも数々の工夫が凝らされていることがわかり、感動した。今後コンビニに立ち寄ることがあれば、そういったことにも注目してみたいと思う。

2. アンケートの結果と考察

(1) 質問事項

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| ①コンビニ弁当を買ったことがあるか | ⑥コンビニ弁当を美味しいと思うか |
| ②購買を利用したことがあるか    | ⑦コンビニ弁当は必要か      |
| ③コンビニにどのような割合で行くか | ⑧その理由は何か         |
| ④どこのコンビニか         | ⑨コンビニについてどう思うか   |
| ⑤1ヶ月にどれくらいお金を使うか  | ⑩好きなコンビニ弁当は何か    |

(2) 考察

\*全部は紹介出来ないなので、特徴のある物のみを書きました。

①コンビニ弁当を買ったことがあるか

ある 153人 98.7%  
ない 2人 1.3%

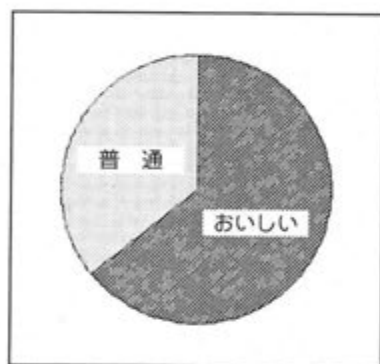


いかに私達の生活がコンビニに密着しているかが、よくわかる。

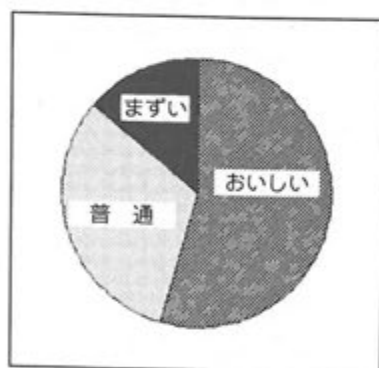
⑥コンビニ弁当を美味しいと思うか

男女差が大きく現れた

	男		女	
美味しい	41人	58.6%	39人	51.3%
普通	23人	32.9%	23人	30.2%
まずい	0人	0%	10人	13.1%



(グラフ1) 男子

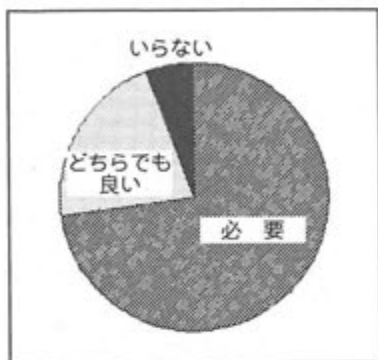


(グラフ2) 女子

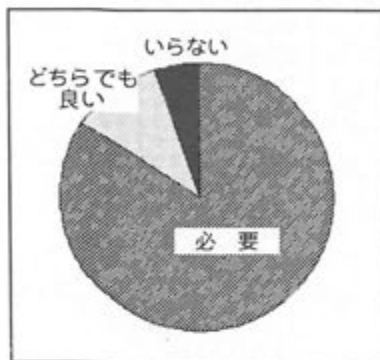
コンビニ弁当をまずいと思っている人全員が女子だったので、とても驚いた。まずいと考えている理由として挙げられていたのは、「添加物がいや」「冷めている」「家で作った方がいい」などだった。女子は弁当が作られてゆく工程に、男子は弁当の味そのものに注目しているように感じた。

⑦コンビニ弁当は必要か

この問いに対し、必要と答えた人が全体の79.3%にもなったことから、質問①でも確認したとおりいかにコンビニの必要性が高いかがわかった。また、質問⑥では男子の方がコンビニ弁当を美味しいと感じていたのにも関わらず、男子はコンビニ弁当の必要性を女子ほどには感じていなかった。(下図)



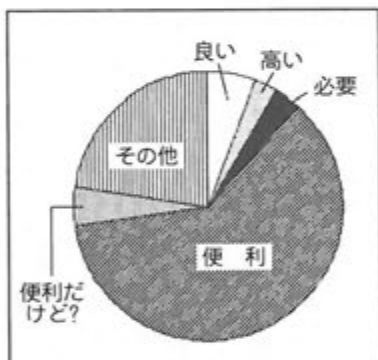
(グラフ3)



(グラフ4)

⑨コンビニをどう思うか

便利だと答えた人の割合は圧倒的に多く全体の59.3%を占めた。(下図)



コンビニの名前の由来である[Convenience Store]という言葉に強く実感することができた。

※ここでコンビニに対する意見を少数派も含め紹介したいと思います※

長所	短所
Useful 利用しやすい 便利 涼しい	栄養が少ない 高い 添加物が心配 ゴミが多い
長所と短所を 両方述べている	相反する 違う人の意見
便利だがゴミが多い 便利だがいつもは要らない	数が多い ← → 少ない 安 ← → 高い

様々な意見がありコンビニの新たな一面を見た気がしました。

(3) アンケートのまとめ

- ・コンビニは私達、附中生にとって身近な物であり、コンビニ弁当を買う事について、特に抵抗はない。
- ・コンビニ弁当への味の感じ方については、男子には高評価を得ており、「まずい」と回答した人はいなかった。しかし、女子については「まずい」と回答した人が13%に及ぶため、評価はやや下がる。
- ・附中生全体としてのコンビニの存在は、便利で良い存在である。

3. バーチャル・ウォーター ～コンビニ弁当を作るために必要な水の量は?～

(1) バーチャル・ウォーターとは?

バーチャル・ウォーターとは、輸入される農作物などについて「もし、それを自分の国で作ったら」と考えたときに必要となる水の量のこと。つまり、物を輸入することで、その物を自国で作れば必要となるはずだった水(バーチャル・ウォーター)を節約している、ということである。

(2) 食品を生産するために必要な水の量

①穀物の場合

米 1 kgを生産するのに必要な水の量	3600kg
小麦 1 kgを生産するのに必要な水の量	2000kg
コムロコシ 1 kgを生産するのに必要な水の量	1900kg
大豆 1 kgを生産するのに必要な水の量	2500kg

②牛肉の場合

牛肉 1 kgを生産するのに必要な水の量	20000kg
----------------------	---------

どうして牛肉を生産するのに必要な水の量が桁違いなのかというと、それは、牛は穀物を食べて育つからである。牛には、1日に5kgの干し草、15kgのサイレージ(干し草を発酵させた物)、10kgの濃厚飼料(穀類、油かす、脱脂粉乳、魚粉など栄養のある物)を与えなければならない。牛を育てるのに大量の水が必要となるのは、濃厚飼料を与えているからだ、と言われている。

(3) 牛丼弁当を作るために必要な水の量

①ご飯に必要な水の量

茶碗1杯分の米=75グラムの米=270kgの水

②牛肉に必要な水の量

100グラムの牛肉=2000kgの水

③合計 270kg+2000kg=2270kg=約2.3トンの水

牛丼一個を作るのに2.3トンも水が要ることがわかった。こんな弁当が日本中で1日にいったい何個捨てられているのだろうか…と考えると恐ろしくなった。しかも、日本の食料自給率が40%のこの昨今、捨てられている食品はほとんどが輸入品と要って良い。

→つまり、日本は外国から大量に食料を輸入すると同時に、大量のバーチャル・ウォーターを輸入し、そしてそれを捨てている、ということが判明した。

#### (4) 世界の水問題

先ほどの(1)～(3)でもわかるとおり、日本はバーチャル・ウォーターを大量に輸入している。その、相手国として1位のアメリカでは深刻な水不足問題が起こっている。

##### ①オガララ帯水層の水位低下

オガララ帯水層はアメリカ中部に位置する巨大な帯水層で、ステップ気候に位置するこの地域の重要な水資源となっている。しかし近年地下水の汲み上げすぎにより、水位低下が起こっている。もし、オガララ帯水層が枯渇してしまったらアメリカの農業は大打撃をうけ、日本への輸入はストップすると考えられている。

#### IV 研究のまとめ

コンビニ、コンビニ弁当は中学生にとって便利な存在だが、その「便利さ」の裏には、たくさんの食品廃棄が「影」の部分となっていることがわかった。また、コンビニ弁当を作るために沢山のバーチャル・ウォーターが輸入されていることもわかった。地球の水資源が枯渇しかかっている現在、食品を捨てることはあってはならない事だと強く感じた。

#### V 感想

コンビニの仕組みが知れたらいいな、と思って軽い気持ちで始めた今回の自由研究でしたが、進めて行くにつれ数々の「影」があることがわかり、驚くと同時に、ショックを受けました。

1つの「便利さ」の裏に数多くの「影」がある以上、私達は「便利さ」を求める心にブレーキをかけなければなりません。生活がどこまで「便利」になったらいいのか、どの程度までの「影」が許されるのか。

私の研究を通してこういった考えを持つ人が増えていってくれたらうれしいです。

最後にアンケートに協力して下さった附中62期生の皆さん、インタビューに応じて下さったセブンイレブン堺筋本町店の店長さん、ありがとうございました。

#### VI 参考文献

- ・千葉 保 『コンビニ弁当16万キロの旅』 太郎次郎社エディタス 2005年9月
- ・橋本 淳司 『世界が水を奪い合う日 日本が水を奪われる日』 PHP研究所 2009年6月
- ・フレッド・ピアス 『水の未来』 日経BP社 2008年7月